

医療・環境保全・農村開発

コミュニティ活動とクリニック運営

今年度も期待したい「母と子の健康を守る」活動

「家族計画研修、妊婦検診、出産介助などの助産所を拠点とする各種医療サービスに加えて、ジェネラルサントス郊外や辺境のコミュニティでの各種ニーズに対応した活動ができました」。4月初め、PIHS代表ナプサさんから届いた前年度報告には、 balanガイ・ヘルスワーカー等行政との協働に触れたものが多く見られました。PIHSの22年に及ぶコミュニティベースの活動のノウハウが生かされたものとして、2002年にティナガカン村他で実施の「母と子のコミュニティスクール事業」以降、モロ民族地域での活動を支えてきた私たちとしても嬉しい報告でした。



←ジェネラルサントス市内アラビア語学校寮の厳しい規律で精神的問題を抱えた女生徒を対象に、「心の健康教室」を開催。ナプサさんの娘で臨床検査技師コース3年の奨学生ザイラも参加して血液検査なども実施しサポートしました。



← PIHS主催で、毎年開催の妊産婦や町の保健師を招いてのセミナー「妊娠の日/Buntis Day」。参加者で問題がある場合は助産所の非常勤産婦人科医ジェブライリンさんが対応しました。

観光客や研修生が戻ってきたレイクセブ町 ティヌオス女性組合のハンディクラフト販売が好調です！

州都コロナダル市内のNDM大学やショッピングモールのほか、アニータさんの広い人脈で開拓した販路は遠くダバオ市まで拡大しています。お膝元のレイクセブ町でも、コロナ感染拡大がほぼ収束したことで、マリスタ修道会「黙想の家」での売り上げが好調です。この時期、年度末に多いミッション校の黙想会に参加した生徒たちは、価格が手ごろなビーズ製品を購入、引率の教師や修道女にはティナラク織財布やノートパソコン用の手さげ等が人気とか。



女性組合一番の竹細工名人ミエルナさんから、手ほどきを受けるアニータ先生(左)

一方、その品質と手ごろな価格から人気がある竹細工。アニータ先生は、例えば竹ざる一個を50ペソで母親たちから買い取り、「黙想の家」の売店に75ペソで卸しています。母親たち組合員には現金収入が入り、差額25ペソは、換金手数料として、先住民族学校の教師給与等の運営費に充てています。その他のハンディクラフトについても同様で、2年前に支援のサイドカー付バイクがこのハンディクラフトの搬送に活躍しています。



「黙想の家」売店一番人気、ティヌオスの竹細工

元気な子ヤギが1匹生まれました！

8匹から再出発の住民組合TBAの医療費創出事業

1年半ほど前に始まったヤギの繁殖事業は、すでに報告のように、放牧地の草に起因する問題のほか、いくつかの要因が重なり昨年暮れには、当初の20匹のうちすでに半数以上を失いました。現地事業責任者のボニファシオには、獣医の助言に従い、繁殖に向けて頑張るように伝えるとともに、ボールの住民組合が管理する2023年度の新規申請事業については、オロクロフェ地区における小規模アグロフォレストリー支援の検討を伝えました。なお、4月中旬には、妊娠中の2匹のうち1匹に元気な子ヤギが生まれたとその写真が届きました。

獣医からは子ヤギにはワクチン接種が必須であること、気温が下がる雨季のボールでは、体温低下を防ぐため、舎飼いにした方がいいというアドバイスもあったそうです。

設備費が安く、貧困世帯でも飼育可能なヤギ。また、kg当たり450ペソ(1,100円)と牛肉より高いとのこと。飼育する住民も増えているようです。住民組合/TBAでも、失敗を糧に繁殖を成功させ、収益に結び付けてほしいと思います。



アニータ先生に期待したいアグロフォレストリーの推進

在来種ナボルの苗木移植が進んでいます

「先住民族のパートナー/PFP」と協働を始めた2002年以降続く20件を超えるアグロフォレストリー事業。すでに報告のように、2020年10月のビビアンさんの他界でPFPが実質的に解散して以降、過去の事業モニターは私たちに託されました。しかし、コロナ禍もありほとんど実施できていません。

一方、2015年から3年間、PFPと協働したレイクセブ辺境については、同地域で先住民族学校を運営のアニータ先生の協力を得て、今に至るまで随時苗木の成長報告を受けることができています。

また、アニータ先生はPFPのスタッフと同じく、元神父レックス氏創設のSCMで働き、「熱帯林を守る、修復する」という理念を引き継いでいて、父母や住民に森に残る在来種苗木の収集を奨励し、買い取って学校農園に植える活動を続けています。



移植後の手入れの目印として、苗木が入っていたポリ袋を支柱に引っ掛けたままにしています